

RCEとしての環境教育、人財育成

RCE（国連大学持続可能教育拠点）認定(06年)

環境人財育成総合計画

- ・ 横断的、総合的に進める人財
- ・ 市民の環境リーダー
- ・ 専門知識を市民にわかりやすく伝える解説者
- ・ 環境ビジネスを創出するリーダー
- ・ 次代を支える研究者、専門家
- ・ 都市ストックを生かすソフトを創出する人財
- ・ アジアの環境ネットワークを進める人財

環境ミュージアム

～ 市民の環境学習・交流の総合拠点～



[建物外観]



[環境ボランティアの活動]

市民 約70名のボランティアが活動中。中高年中心。

機能 公害克服の歴史や地球環境問題など8つのゾーンで環境情報を発信

設備 最新の環境技術を駆使した環境配慮設備

(リサイクル素材、太陽光利用、氷蓄熱空調、ビオトープ、窒素酸化物吸収ブロックなど)

開館 平成14年4月

オリジナルの環境教育副読本 (幼児～中学生)



幼児から中学生まで発達段階に応じた内容
(5段階)

一貫した流れの中での環境教育を実施



エコタウンを活用した人材育成事業

九州環境技術創造道場

<北九州市>

- ・目的:九州における環境技術者の人材育成
- ・平成16年～
- ・2泊3日×4回
- ・テーマ:廃棄物管理を中心とした総合環境技術



廃棄物・リサイクル専攻別研修

(循環型社会実践コース) <環境省>

- ・目的:環境行政に携わる全国自治体職員
の育成
- ・平成15年～
- ・8泊9日
- ・テーマ:循環社会政策の理論と実践



北九州市PCB処理監視委員会



第1回委員会 平成14年2月14日



監視委員会だより

- 目的** PCB処理事業が安全かつ適正に行われるよう、施設の計画、建設、操業の各段階において、監視を行う
- 役割** 書類の閲覧、施設への立入、意見の提出
- 構成** 12名(学識経験者 5名 **市民委員 7名**)
- 開催** 年4回程度
- 公開性** 傍聴席の設置、HP・会報等による市民への周知(**若松区民全戸回覧**)

北九州市自然環境サポーター

市域の40%は森林

182種の希少種

九州から本州、大陸への
渡り鳥の飛来地



観察講座



体験講座

[平成17年度自然環境サポーター養成講座]



竹運搬



マルチング材

[養成講座での竹林整備と竹の有効利用(チップ化)]

エコテクノ展示会



企業展示会の顧客は大人だけではない！

わがまち環境自慢



清掃ボランティア



都心のカワセミ



環境住宅

環境自慢1000

まちの「たから」や「ちから」を市民みんなで発掘しPR（平成17年度227件認定）



エコライフステージ

市民が主体的に環境活動に取り組むための舞台を設定、交流・情報発信（2日間で12万人）

- 1 . 公害対策の経験
- 2 . 環境国際協力の歴史
- 3 . エコタウン事業とその発展
- 4 . 環境首都グランドデザイン
- 5 . 低炭素社会に向けた取り組み
- 6 . 環境人財育成
- 7 . アジアとのWIN-WIN関係へ

途上国における廃棄物問題の例

(ネパール カトマンズ市の例)

- ・人口急増(10年に2倍)、75万人/660km²
- ・プラごみ急増(10%にも)
- ・家庭でのゴミ箱不十分
- ・収集効率悪い(直営職員の資質、教育不足)
- ・作業用重車両不足
- ・処分場不足
(現在→周辺にコミュニティ、新規→反対運動)
- ・処分場の構造不備
- ・リサイクルプラントがない
- ・有害(医療)廃棄物の処理システム未確立

日本の自治体の現場経験がかなり有効

アジアの環境人材育成拠点事業 ～5年で2,000人～

背景

- ・アジア地域全体で環境問題への実践的な取り組みが必要
- ・地方が先進拠点となることが重要(2005骨太の方針)
- ・北九州市には、環境対策、3R政策の豊富な経験
- ・北九州市側もビジネス化を志向

概要

KITA(北九州国際技術協力協会)と日中友好環境保全センターとの
共同事業 (環境全般)

JBIC(国際協力銀行)円借款事業による研修事業

- ・遼寧省、貴州大学からの研修生受け入れ (循環経済)
- ・昆明、フフホト研修生受け入れ (下水道)

福岡県国際環境人材育成事業

- ・江蘇省、ASEANからの研修生 (循環経済)

中東協力センターからの委託 (水質、大気汚染)

JICA国別研修 (循環経済)

カンボジア水道事業協力(水道)

研修風景(視察・実習)

